

駿河台大学資格課程年報

*Surugadai University
qualification course annual report*

司 書 課 程
学 芸 員 課 程

No.25
(2024)

ごあいさつ

駿河台大学資格課程 主任 長谷 憲一郎

『駿河台大学資格課程年報』第25号をお届けいたします。

駿河台大学は1994年3月に文化情報学部が創設され、1995年4月に、文化情報学部資格課程（司書課程・学芸員課程）が設置されました。開設7年目の2001年に『駿河台大学資格課程年報』創刊号を刊行しました。そして、その後も継続して年報を刊行し、今年度も無事に第25号を刊行することとなりました。

司書課程においては、文字情報だけでなく、映像や音響も含めた多様な情報に対する理解や対処ができる、まさに情報の専門職の役割を果たす司書を養成しています。

学芸員課程においては、博物館資料の展示・教育活動等の情報社会における意義・役割を重視したカリキュラムを設置し、資料情報のデータベース化やインターネット上での公開などの情報処理技術を身につけた新しい学芸員の養成をめざしています。

文化情報学部が2009年度にメディア情報学部へ改組され、その後、駿河台大学資格課程は同学部に設置されるようになりました。資格課程にはメディア情報学部のほか、法学部・経済経営学部・現代文化学部・スポーツ科学部・心理学部の学生も登録することができます。2013年度からは、図書館法および博物館法の改正に伴い、それに沿った新しいカリキュラムが開始されています。

現在、多くの授業が対面に戻りましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大も無く、無事1年間を終えることができました。ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

また本学では、学外実習が始まった当初から実習生とともに担当教員がそれぞれの実習館を訪問させていただくことで、多くの実習生が実践的な経験や訓練を積むことができました。今年度も本学の実習生を受け入れ、ご協力いただいた館園には、厚く御礼申し上げます。この年報を通してみなさまに本学の資格課程カリキュラムの内容や実習のレポートなどをご確認いただけましたら幸いです。

= 目 次 =

ごあいさつ	長谷 憲一郎
I. 司書課程 駿河台大学 司書課程について	青野 正太 …………… 6
II. 学芸員課程 駿河台大学 学芸員課程について	長谷 憲一郎 ……………10
《博物館訪問記》 飯能市立博物館訪問報告	村越 一哲 ……………13
《博物館実習 体験記録》 博物館実習を終わって —課題レポートから—	博物館実習生 ……………14
資 料 博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年分） 2022年度、2023年度、2024年度 2024年度資格課程（司書課程・学芸員課程）修了者 司書課程科目担当教員一覧（2024年度） 学芸員課程科目担当教員一覧（2024年度）	

I . 司書課程

駿河台大学 司書課程について

メディア情報学部 助教 青野 正太

司書課程の特色

駿河台大学では1994年文化情報学部創設の翌年に資格課程として司書課程と学芸員課程を設置し、2023年度までに1,656名の資格取得者を輩出している。2001年度より資格課程は全学に開かれ、他学部の学生も履修できるようになった。

2009年に文化情報学部はメディア情報学部に変更された。メディア情報学部は、映像・音響、デザイン・アニメ、情報・図書館の3コースで構成されており、様々なメディアの本質を理解し、各種メディアに精通し、多元的メディア社会に即戦力となる人材の育成を目標としている。

司書が専門的な業務に従事する図書館には、公共図書館・学校図書館・大学図書館に加えて、企業等に設置されている専門図書館や情報センターがあり、それぞれの利用者のニーズに応じて様々な情報サービスを提供している。駿河台大学の司書課程では、メディアと情報資源に関する全般的な学びをベースに資格取得を目指すことから、図書館はもちろん、他の分野においても、多様な情報資源を活用し様々な課題解決を支援することができる人材の育成に努めている。そのため、司書科目だけではなく、受講生自身が自分の強みとしたい分野の科目についても、積極的に履修することを勧めている。

司書課程4年間の流れ

司書課程科目は1年次から開講されている。資格取得には、4年次までに「司書課程科目」で定められた科目を計画的に履修し、単位を修得することが求められる。ここでは2024年度以降の入学生を例に、4年間の履修の流れを紹介する。(司書課程科目一覧を参照)

1年次： 入学してすぐに資格課程登録ガイダンスを受講し、期日までに「資格課程受講登録」を申請する。1年次から履修できる「図書館概論」、「図書館サービス概論」、「図書館情報資源概論」の必修3科目を履修し、単位を修得する。

2年次： 2年次から履修できる「生涯学習概論」、「図書館情報技術論」、「情報サービス論」、「情報資源組織論」、「児童サービス論」の必修5科目を履修し、単位を修得する。選択科目も適宜履修し、単位を修得する。

3・4年次： 3年次から履修できる「図書館制度・経営論」ならびに演習科目である「情報資源組織演習」、「情報サービス演習」の必修3科目を履修し、単位を修得する。また選択科目を「図書館情報資源特論」、「図書館サービス特論」、「図書館基礎特論」、「図書館総合演習」から2科目以上履修し、司書資格取得に必要な単位(必修22単位を含む26単位以上)を満たす(「情報資源組織発展演習」、「情報サービス発展演習」を履修することが望ましい)。

司書課程科目一覧（2024年度以降入学生適用）

区分	図書館法施行規則によって定められている科目	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数	
必修科目	甲群	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2	11科目 22単位 必修
		図書館概論	2	図書館情報学	2	1	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	3・4	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	1	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス基礎演習	2	3・4	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	1	
		情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
		情報資源組織演習	2	情報資源組織基礎演習	2	3・4	
		児童サービス論	2	児童サービス論	2	2	
選択科目	乙群	図書館情報資源特論	1	情報資源組織発展演習	2	3・4	2科目 4単位 以上
				歴史資料論	2	3・4	
		図書館サービス特論	1	コミュニケーション論	2	2・3	
				情報サービス発展演習	2	3・4	
		図書館基礎特論	1	情報処理概論	2	1	
		図書館総合演習	1	図書館総合演習	2	3・4	

II. 学芸員課程

駿河台大学 学芸員課程について

メディア情報学部 教授 長谷 憲一郎

学芸員課程の目標と経過

駿河台大学の学芸員課程は、メディア情報学部設置されている。これまでメディア情報学部では教育目標の一つとして、「情報メディアエイター」の養成を挙げてきた。「情報メディアエイター」とは、人間の文化的営みに関する諸々の資料などに関する専門的知識を持つとともに、これらの資料情報をシステム化し、データベース化するための情報処理技術を身につけ、これらの資料に関する要求に対して適切な情報提供の仲介を行う専門家のことである。文化資料の宝庫とも言える博物館の「情報メディアエイター」とは、その能力をもつ博物館学芸員を意味する。

この目標を達成するため、メディア情報学部の前進である文化情報学部のカリキュラムには、学部設置当初から博物館関係の科目が設けられた。1995年、博物館法施行規則にもとづく学芸員資格取得のための必要科目も開設された。また同年、学芸員課程と司書課程を合わせた「文化情報学部資格課程」が設置され、専門的知識と情報処理技術を身に付けた学芸員の養成が本格的に開始された。

その後、1996年の博物館施行規則改正に伴い、1997年度から必修科目が開講されている。2001年度には、他学部の学生や学外の科目等履修生も学芸員の資格取得を目指せるように、学則および科目の一部を改正した。資格課程も学部規模から大学規模に拡大され、現在は全学部からの委員で構成される「資格課程委員会」がその運営にあっている。

学芸員課程の履修科目

1995年の開講時には、必修科目として6科目14単位、選択科目では12科目の中から4科目8単位以上、人文・自然科学系科目として10科目の中から3科目6単位以上の履修が資格取得に必要なように設定された。

1996年度の博物館法施行規則の改正にもなっており、必修科目に「生涯学習概論」、「博物館概論」を追加し、必要単位数を8科目18単位とした。さらに、2001年度から、文化情報学部のカリキュラムの一部改正、ならびに資格課程を本学の他学部、科目等履修生に開講したことにもない、一部科目の新設ならびに入れ替えを行って、学芸員資格取得に必要な科目を加え改正した。

主な変更点は、次の通りである。必修科目では「博物館資料論」を設け、選択科目では科目を一部入れ替えるとともに、他学部開放にもない人文・自然科学系科目をA、Bの二つに分け、それぞれⅡ群、Ⅲ群とした。履修方法は、Ⅰ群は、受講者全員が履修することとし、Ⅱ群、Ⅲ群の科目からは2科目4単位以上を自由選択により修得しなければならないことにした。また、「博物館実習」は、年間を通して大学で行う学内実習と博物館などの現場施設で行う学外実習を合せて実施している。

2013年度からは博物館施行規則改正に伴う新科目の開設を行い、2017年度からは、配当年次、選択科目の見直し等を行い、資格を取得しやすくした。2021年度からは全学の教養科目の見直しに伴って人文・自然科学系科目を見直し、別表1のカリキュラムでの学芸員養成を開始している。

履修登録および博物館実習への対応

学芸員課程の履修については、毎年、「資格課程履修ガイド」を発行し、学生に配布して周知を図っている。これに基づく年間スケジュールでは、まず、毎年4月、1年次生および3年次編入生を迎えた段階で、司書課程と合同で「資格課程登録ガイダンス」を行い、その後、学芸員課程の履修を希望する学生は、登録期間内に本学の所定の方法にしたがって教務課窓口で登録することになっている。

博物館実習については、3年次生を対象に、毎年11月上旬に第1回のガイダンスを行い、博物館実習の実施内容や実施上の注意事項を改めて説明している。そのとき、実習館園に関するアンケート調査を行い、その後のガイダンスで担当教員と学生が相談しつつ実習希望館園を絞り、適時学生自身に申し込みをさせている。その後も、申し込みの状況や途中経過などを確かめ、およそ3月～4月末までに学生各自の実習館の内諾をいただけるようにしている。内諾をいただいた実習予定館園に、正式に文書で依頼している。

実習直前には、実習予定学生に対して「実習直前ガイダンス」を行っている。ここでは、博物館実習は、実習実施に当たっての諸注意や期間中の連絡体制等を説明し、実習日誌などを配布して、実習の心構えと準備を整えさせている。博物館実習の授業内では、実習に対する心構え、事前準備などの事前指導を行っている。実習が始まると、担当教員ができるだけ実習期間中に各実習館園に挨拶に伺って、実習状況の確認と実習学生の激励を行い、以後の学生受入についてお願いしている。また、実習終了後には事後指導を行い、学芸員の職務を再確認させ、学芸員になるための一層の努力を促している。なお、資格課程に関わる一連の事務は、メディア情報学部担当の教務課職員に担われている。

学芸員資格課程の今後

1997年度に初めて、本学の学芸員資格課程で86名が学芸員の資格を取得したが、2013年度の法改正後は5～6名の学生が資格を取得している。ここ数年は10名程度と微増傾向にあるが、これまで博物館に就職した者は数名にすぎない。学芸員募集には、募集分野の細分化や高学歴化の傾向、施設運営の指定管理制度導入の影響が見られ、資格を持ちながらそれを活かす職に就けない状況が続いている。これは本学資格課程だけの問題ではなく、学芸員課程を開設している日本全国の大学に共通な問題である。

一方、学芸員資格は国家資格であるため、これを取得したことを重視して採用を行っている企業も、多くはないものの存在する。そこで本学では、博物館実習を一種のインターンシップの場としても捉えている。幸い、実習博物館でも、実習学生の受け入れを社会教育施設の業務の一つであると解して協力してくれるところもあり、今後大学と博物館とのさらなる連携を推進して行く必要がある。

2022年4月に博物館法が改正となり、目的に「文化芸術基本法に基づくこと」、「博物館資料のデジタル・アーカイブ化」が追加された。他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与が努力義務化にもなった。このような変化に対応するためにも、カリキュラム・教授内容を再検討して社会が必要とする学芸員の養成を行っていく必要がある。

別表1 学芸員課程科目（2021年度以降入学生適用）

区分	博物館法施行規則によって定められている科目等	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習論 ※1	2	2	10科目 20単位 必修
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3 4	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3 4	
選択科目	資料・情報管理系科目		マルチメディア論	2	1	8単位 以上 選択
			アーカイブズ学	2	3 4	
			音響メディア論	2	2	
			データベース設計論	2	3 4	
			ネットワーク構築論	2	3 4	
			デジタル・アーカイブズ論	2	3 4	
	人文・自然科学系科目		歴史資料論	2	3 4	
			文化人類学 A	2	1 2	
			文化人類学 B	2	1 2	
			歴史学 A	2	1 2	
			歴史学 B	2	1 2	
			環境生物学 A	2	1 2	
			環境生物学 B	2	1 2	
			生命の科学 A	2	1 2	
			生命の科学 B	2	1 2	
			現代科学 A	2	1 2	
			現代科学 B	2	1 2	
			地球科学	2	1 2	
			日本伝統文化論	2	2 3	
			世界遺産論	2	2 3	

※1 スポーツ科学部の学生は「生涯学習論」は3年次からでないと履修できません。

飯能市立博物館訪問報告

メディア情報学部 教授 村越 一哲

飯能市立博物館は平成2年に飯能市立郷土館として開館し、平成30年に飯能市立博物館としてリニューアルオープンした、博物館法に基づく登録博物館である。寄贈・寄託される資料を受け入れるとともに、歴史的価値があると評価された公文書の保存にも力を入れている。歴史を専門とする筆者も、戦前の同博物館所蔵資料の利用等でたいへんお世話になっている。

飯能市立博物館を訪問したのは実習5日目の2024年8月7日である。平和都市宣言記念展「記憶の色を保存する 炎と灰のモンタージュ-尾形純が描く飯能から見た東京大空襲-」の開催期間中（7/14-9/1）であった。経済経営学部の大島花菜さん、メディア情報学部の小島怜士さんと藤原朋照さんの実習生3名は、赤田家資料の整理をおこなっていた。赤田家資料には、『ぼくの軍国少年期 当時の図版・写真入り』（赤田喜美男、まつやま書房、1994年）を執筆するにあたり著者が収集した資料が含まれている。それらの資料1点ごとに表題を付けて、資料内容とともに、データベースに入力する作業である。

資料内容を確認し、表題を付すという作業は地味であるが、目録など検索手段作成のための重要な作業の1つである。学芸員課程に設置された授業を受講し歴史資料や資料整理に関する知識を得ていたからであろう、実習者はみな熱心に取り組んでいた。古書体なども情報端末を駆使して効率的に解読していたのが印象的である。講義科目で習得した知識を活かす機会はなかなかないので、このような場で実践できてとてもよかったと思う。

最後になったが、本学の3名を実習生として引き受けていただいた飯能市立博物館に感謝を申し上げる。



右側が大島さん、左側が藤原さん



右側が小島さん

〈郷土博物館での実習〉

飯能市立博物館

経済経営学部経済経営学科 4年 大島 花菜

私は埼玉県飯能市に位置する飯能市立博物館にて、8月1日～9日（うち2日間は休日）までの7日間、博物館実習を行った。今回9人の実習生がおり、今までにない数だと担当学芸員の方達は驚いていた。

飯能市立博物館では、常設展示として「歴史展示室」「身近な自然コーナー」を設けている。

歴史展示室では、「里」「町」「山」「飯能今昔」の4つのゾーンにより、構成されている。飯能市では古代の石器などが出土していることや、「西川材」などの林業が盛んであることなどを取り入れ、過去から現代まで多岐にわたる展示構成となっている。

身近な自然コーナーでは、里山や川原といった身近な自然の魅力を伝えるために、生息する動植物を分野ごとに紹介している。

私が実習をしていた期間には特別展示『平和都市宣言記念「飯能から見た東京大空襲」展』が行われていた。東京大空襲は飯能からでも真っ赤に染まった東の空を確認することができ、その光景を見ていた疎開児童の記憶を絵画で復元したものをその当時の様子などとともに展示する、といった内容であった。

実習1日目、午前中に「オリエンテーション・当館の現状と運営方針」をご講和いただいた。午後には2日目に行く「夏休み子ども自然教室の準備」を行った。

講和では「飯能おでかけMAP」を見ながら、飯能の歴史、特徴、観光、特産について学んだ。ここで私は飯能市の8割が山であり、緑に囲まれている自然豊かな土地なのだと改めて感じた。次いで、埼玉県内の歴史・民族系博物館について学んだ。ここでは規模や、様々な数字を見ながら各博物館が持つ事情を読み解いた。飯能市立博物館では飯能市全体を紹介するための「ビジターセンター」的役割を担っていることを学んだ。

「夏休み子ども自然教室」は飯能市という自然豊かな土地であるからこそできる、博物館教育事業だと私は感じた。事前に現場を下見し、どのようにイベントを行うか、危険な場所は無いか、などの確認を行った。この事前の下見がとても重要であると感じた。実際に足を運ぶことで、当日のイメージがしやすくなり、中でも1番は子どもたちをいかに危険から守ることができるか確認することができる。

実習2日目、午前は夏休み子ども自然教室を行い、午後は片付けや振り返りを行った。

当日は猛暑の中で、参加者や自分自身の体調管理も重要であった。時間を設け、子どもたちは自由に

川の生き物を探索した。その際に前日確認した危険な場所へ子どもたちが足を踏み入れないように声掛けを行いながら、私も一緒に探索を行った。講師の先生が子どもたちが採ってきた生き物について解説し、それを聞いている子どもたちの生き生きとした顔は忘れられないほどに輝いていた。

午後にはイベントの反省会を行った。子どもたちへ配布した探索グッズの改善点やその他改善点などについて話し合った。探索を行っていた子どもたちに積極的に声をかけていた甲斐もあり、実際に使用した子どもたちの感想も聞き出せていたので、改善点や良かったところなども挙げることができた。この1日でこういったイベント運営の大変さや、教育機会の大切さを学ぶことが出来た。大きな事故も無く、無事に終えることができ、充実した1日となった。

実習3日目、午前は博物館内の見学と批評を行い、午後からは実習4・5・6日目にも行う「赤田家資料整理」が始まり、6日目には資料整理を元に展示要項の作成を行った。

午前の館内見学では、担当学芸員の方と館内を見学し、実習生が気になったところや意見などを議論しながら見学した。展示の見せ方や、バックヤードの資料整理についても議論し、自分では気づくことがなかった視点も発見できて大きな実りとなった。

午後からは「赤田家資料整理」が始まった。資料整理、目録作成を行い、最終的に展示の企画書作成を行うものだ。赤田家資料は飯能市で学校教諭、図書館副館長、市役所職員、作家などとして活動していた赤田健一が収集した資料群だ。初めて資料を見た時に量の多さに驚いたが、実習でしか体験できない貴重な体験を逃さないよう、尽力した。今回は、戦時中・戦後の資料を中心に整理を行った。8月は終戦の日ということもあり、資料整理を行いながら当時の記憶に触れ、戦争の残酷さや恐ろしさについても改めて学ぶことができた。事前に情報がある資料もあれば、全く情報がない資料もあった為、インターネットや書籍を頼りに情報を引き出した。一つの資料からどれだけの情報を読み解くことができるか、苦勞したが楽しい作業でもあった。目録化の際には、資料情報を全て書くわけにもいかない為、情報の取捨選択が1番難しい作業だった。展示要項の作成では私は「郵便」をテーマに考えた。資料の中には手紙や切手などが多くあった為、「郵便」は当時の人々にとってどのように関わっていたのかを展示してみたいと感じた。他の実習生の展示要項も見合い、様々な視点があり、興味深かった。

最終日には尾崎館長の講話、飯能市の教員研修に帯同し、実習の振り返りを行った。

尾崎館長から飯能市立博物館および博物館について取り巻く話をしていただいた。博物館評価や展示評価など、現代だからこそ起こる問題や、メリットなどについて学ぶことができ、自身も考えるきっかけとなった。

教員研修の帯同では、博学連携に関する講和、展示見学、バックヤード見学を行った。ここで、教員の方向けの博学連携に関する話を聞くことができ、改めて博物館がいかに学習に関わることが大切かを学ぶことが出来た。

実習の振り返りでは、実習生のアンケートを元に尾崎館長からフィードバックをいただいた。館長は「資料整理が学芸員の醍醐味」とおっしゃっていた。この実習を通してこの言葉を実感した。

この7日間は、楽しく、学びの多い時間であった。

お忙しい中、実習を受け入れてくださった職員の皆様に感謝申し上げます。



夏休み子ども自然教室の様子



トレーごとに生き物を分け、子どもたちは観察した

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 小島 怜士

私は8月1日（木）～8月9日（金）までの間、休館日2日間を除く7日間で飯能市立博物館にて実習を行いました。この博物館は当初、飯能市郷土会館という名称で飯能市の歴史や文化のみを取り扱っていましたが、平成30年4月から飯能河原・天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加し、飯能市立博物館としてリニューアルオープンしました。現在は、飯能市の歴史や文化、飯能市の身近な自然について学習することができます。特に、歴史や文化について展示している歴史展示室では「里」・「町」・「山」・「飯能今昔」の4つのゾーンに分けられていることが特徴です。

1日目では自己紹介と翌日に行われる企画も準備を行いました。自己紹介では、自分らしさを伝えることによってともに実習を受ける人たちとの距離を縮められるようにしました。また、企画の準備では飯能河原の状態の確認や当日資料の準備をしました。そして2日目では夏休み限定企画である「夏休み自然教室」を行い、企画に訪れた小学生たちのサポートを行いました。大自然の中で行われたので、自分も童心に帰ってしまうことや小学生たちが自分たちの言うことを聞いてくれないといったことがあったもののうまく小学生たちのサポートを行うことができました。この時の体験について私は、野外活動で自分より小さい子たちのサポートを行う難しさを理解しました。

8月4日と8月6日～8月8日までの合計4日間では、赤田家資料の整理を行った。3日目である8月4日では、資料整理担当の学芸員の方によって午前の時間帯で館内の見学が行われました。館内の見学では、バックヤードや資料を収蔵している収蔵庫を訪れました。訪れたバックヤードや収蔵庫では、博物館ならではの問題を発見しました。私が気づいた問題は、バックヤードでは空調がなく明かりがないうことと収蔵庫では収まりきれないほど多い資料とその資料を収蔵する場所がないことの二つです。また、博物館の費用も少ないという話もあったことから博物館運営にかかる費用が少ないので設備の整備を行えないという公務員の難しさを感じられました。

3日目の午後からは、赤田家資料の整理をするために役割分担と赤田家資料の準備を行いました。赤田家資料を準備していた際にその膨大さに圧倒され、全部できるわけがないと資料を整理する前から弱

気になっていたものの、少し後から冷静に考えてみてこれも大事な仕事の一つだと気持ちを切り替えることで4日目と5日目、そして6日目の午前は本格的に資料の整理を行うことができました。4日目と5日目ではパソコン上でExcelの作業と資料内容を分析してパソコンを操作する人に伝える作業の二つを午前と午後の交代制で行い、目録作成をしました。特に、資料内容を分析することは年代や内容が細かく記されていないものもあったため大変難しかったです。しかし、繰り返し作業を行っていくことで資料分析を行うということが資料をどのように解釈していくかによって資料の意味が変わっていくことを理解することができました。

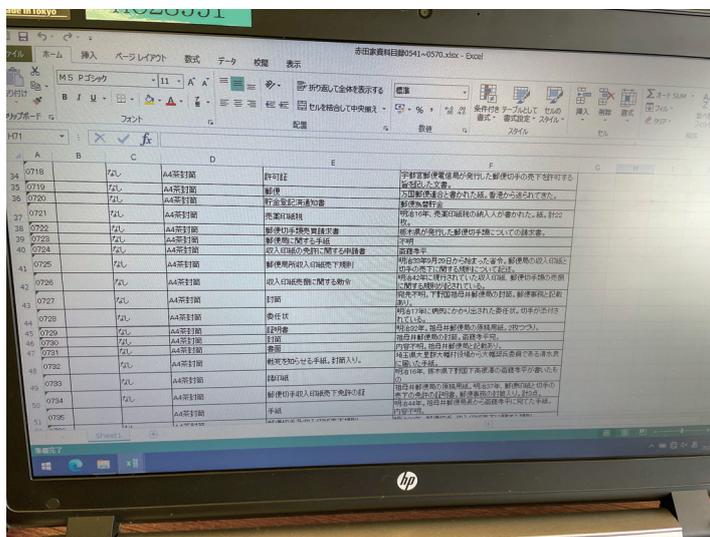
そして、6日目の午後は作成した目録を使って赤田家資料の展示要項をそれぞれ作成することになりました。6日目の午前までは、ペアの人と協力していたから順調だったものの午後から一人で作成していくことになったので最初は不安でしたが、学芸員の方が丁寧にサポートをしてくれたことで自分なりの展示要項を作成することができました。このことから私は、自分で独自の書類を作ることがどれだけ大変かを理解しました。

7日間の実習を通して私は、たとえ博物館以外でも資料を分析していくことの大変さやチームワークの大切さを学びました。この実習で学んだことは将来どの職場でも活かすことができると考えているので、この貴重な経験を忘れないように今後の大学生活における卒業論文作成や講義内のグループワークなどでも活かしていきたいと思いました。

最期に、夏休みの企画でお忙しい中で本実習を受け入れてくださった飯能市立博物館の学芸員様全員には心から感謝いたします。



赤田家資料を整理



Excelで目録を作成中

私は8月1日から土曜日と月曜日を除いた7日間、埼玉県飯能市にある飯能市立博物館で実習をしました。実習生は例年に比べて多く、私たち駿河台大学学生を含めて9名が実習を受けました。1972年3月に「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店により寄附された1千200万円が予算化された。1990年に飯能市立郷土館が開館。2018年飯能市の飯能河原・天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加し、名称を「飯能市立博物館」としてリニューアルオープンした。常設展示では、歴史展示室と「身近な自然」コーナーに分けられる。歴史展示室は飯能の里・町・山・飯能今昔の4つのゾーンからなり、解説パネルが入れ替え可能なタイプで展示替えが容易な構造となっている。「身近な自然」コーナーは、飯能市立博物館周辺の飯能河原・天覧山周辺の自然のビジターセンター的機能を担っている。また飯能市立博物館はミッション(使命)「個人的な価値」「学術的価値」「社会的価値」の3つの価値を掲げている。

実習初日、午前中は実習生の自己紹介と実習7日間の流れと説明を聞き、飯能市立博物館の現状と運営方針について講話していただいた。飯能市立博物館の沿革・使命などを教えていただいた。また利用者数・歳出予算を表やグラフのデータから読み解き、利用者が多いときの年度の活動や特別展示などの傾向を考えることができた。午後は、2日目に実施する「夏休み子供自然教室」の準備に取り組んだ。他大学の実習生達と準備をしたので緊張したが、みんな手際も良く困ったら協力し合って準備をしたので大変効率的に準備を終えることができた。また、飯能河原にも足を運び当日の流れや注意点を教えていただいた。

2日目「夏休み子供自然教室」当日。天候の問題はなく博物館に子供と保護者の方々が訪れた。我々実習生は二手に分かれて、博物館に残って受付、飯能河原に行く際に誘導、荷物を持つ人と、先に飯能河原に行ってテントを張って現地の準備をする人に別れた。事前に説明と注意点を聞いたので、何事も問題なく終えることができた。子供達と一緒に河原に入って生物を探して大変楽しく良い経験ができた。午後は午前中の反省、改善点を話し合った。私も気づけなかった改善点が多く挙げられて勉強になった。

3日目は、博物館実習の担当の方が来たので改めて自己紹介をした。その後、博物館館内を実習生達が批評をしながら見学を行った。展示室を批評しながら訪れることがなかったので展示の仕方の改善点や新しいことに気づくことができた。その後、4日目以降に取り掛かる赤田家資料整理の準備を行った。

4日目は赤田家資料の整理を行った。資料を読む人と読んだ内容をパソコンに打ち込む人と2人1組で取り組んだ。資料整理の経験が無く心配だったが一緒に取り組んだ実習生の人に助けをもらいながら資料整理を行った。資料整理初日なのもあり反省点が多く例えば、読み解いた資料の内容を簡潔にまとめることができず、効率的に作業をすることができなかった。

5日目も同様、赤田家資料整理を行った。4日目の反省点を考えて、資料内容も簡潔にまとめて分かりやすくてよかった。資料の中には、読むことが難しい文字が多くペアの実習生と協力して解読する作業が多く大変だったが楽しく取り組めた。途中、実習生たちがまとめた資料目録の途中経過を担当の方に作成していただき内容を見たがみんな資料内容のまとめ方が上手く見習おうと思った。

6日目は、午前中残りの赤田家資料整理と地図の仕分けを行った。資料整理も3日目で終盤に差し掛かり、実習生達も取り組んでいた赤田家資料を終える人たちが続出し私たちも取り組んでいた資料整理を終えることができた。そして、実習生たちがまとめた赤田家資料の目録が完成した。資料目録の内容

を確認したがみんな簡潔にわかりやすくまとめ合計約 300 点の資料を整理することができた。3 日間に渡って資料整理したので実習生みんな疲労と達成感に満ち溢れていた。午後は、赤田家資料を用いた特別展が行われる体裁で展示要項を作成した。展示要項の作成ははじめに特別展の名称から決め、趣旨や会期、展示構成などを自分たちで考えて作成したので難しかった。

7 日目は尾崎館長の講話とまとめを行った。博物館の評価方法、展示評価や利用者を増やす方法などについて話し合いをした。博物館評価を上げるために必要なアンケートの被調査者不足の改善点などを考えた。尾崎館長と一緒に考えることができ貴重だと思った。

最後に 7 日間博物館実習を終えて、実際に学芸員の業務に取り組むことができ貴重な体験ができた。短い期間ではありましたが大変なこともあり学ぶことも多くありましたが、時間を割いて実習を受け入れて下さった飯能市立博物館の方々に感謝します。



赤田家資料



「夏休み子供自然教室」準備の様子

〈美術博物館での実習〉

山梨県立美術館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 古屋 李紗

私は、山梨県甲府市にある山梨県立美術館にて 5 日間の博物館実習を行なった。山梨県立美術館は美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、県民文化の発展に寄与することを目的として設置された。広大で緑豊かな芸術の森の一角に位置し、昭和 53 年の開館以来「ミレーの芸術館」として、広く親しまれている美術館である。

今回の実習では、美術館での学芸員の業務、美術館に関わる指定管理者について、教育普及活動の体験、美術品の取り扱いと点検方法、企画展の考案と発表といった、美術館で実際に行われている業務と、美術館の運営を支える仕事について幅広く体験させていただいた。

中でも、特に印象に残った体験は「コレクション展の企画」である。山梨県立美術館は、常設展の名

称を「コレクション展」に変更している。なぜ名称が変わっているのかというと、常設展という名だと展示されている作品はいつまでも変わらないというイメージを持たせてしまう。これを改善するために「コレクション展」という名前にし、季節によって展示を積極的に変えている。これによって、山梨県立美術館に行き慣れた県民などが飽きることなく楽しめる。また、山梨県立美術館の収蔵庫にはどのような作品があるのかを知ることのできるのである。

今回の実習の初日から4日目まで自ら「コレクション展」の企画を考え、図面を作成し最終日である5日目に発表した。コレクション展に使用する作品は山梨県立美術館に収蔵されている作品のみとし、山梨県立美術館が作成した図録や画集から作品を選んだ。私は、「猫」をテーマとし、猫の絵が描かれている作品を探した。図録や画集を何度も探しても猫の作品は少なかった。版画13点、素描3点、アクリル1点、日本画1点の計18点を集めることができた。版画が多いことから全体的に小さいサイズの作品ばかりであった。図面を作成する際に、展示室が広いのに対し作品が小さい上に少ないという課題が発生した。この問題を解決するために、展示にあえてスペースを作り1つ1つの作品をじっくり鑑賞できる空間を作りたいと考えた。ただスペースを開けるだけでなく、壁が4面あることを生かし比較的に大きいサイズの作品を中央に配置するように工夫した。このことから全体的にバランスが整い統一性のある企画展を作成した。

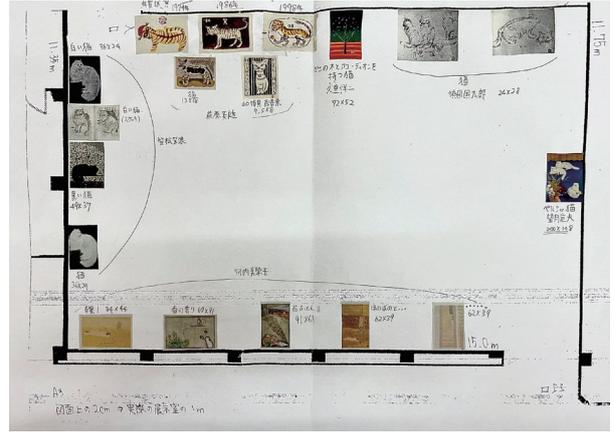
5日目には学芸員全員がいる中、発表し講評をさせていただいた。先述した通り、山梨県立美術館は猫に関しての作品収蔵数が少ないとおっしゃっていた。収蔵数が少ないことから、テーマを猫に絞るのではなく動物全体などにして一画を猫コーナーにするとバランスが良くなるとご指摘いただいた。作品数によって展示室の空間に負けていると分かっているながら、空間を利用することを考えていたが、実際にこのような企画展があったらすぐに飽きてしまうだろう。作品数を多くし、鑑賞することに飽きるのではなく、楽しさを感じてもらおう工夫ができなかったことを反省している。「コレクション展」の企画は、実際に学芸員が行っている業務であったという点と、テーマを決め作品を選ぶ難しさ、完成した時の達成感から、今回の実習の中で1番印象に残った。

今回の博物館実習では、5日間の短期間であったが、美術館についてたくさんのことを体験し学ぶことができた。博物館について事前に学んでいたことと、実際の現場とのギャップを体験し深く学べたことが、今回の博物館実習における一番の成果である。コレクション展を企画する際に、収蔵庫の作品を端から端まで探すのはとても大変な作業であった。しかし、山梨県にゆかりのある作家や収蔵されている作品の傾向を知ることができ、美術館の特性を理解することができた。また、今回得られた美術館についての知識や、県立美術館がどのように地域と関係しているのかも学ぶことができ、とても充実した5日間であった。

お忙しい中、山梨県立美術館の方々には、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。最後になりますが、仕事の合間にも関わらず博物館実習を快く受け入れてくださり、感謝申し上げます。



画集から作品を探している様子



作成したコレクション展の図面

=資料=

博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年間）

【2022年度】

No.	所在	館種	2022年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	総合	入間市博物館 ALIT	1
2	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	2
3	埼玉	総合	狭山市立博物館	1
4	埼玉	歴史	東村山ふるさと歴史館	1
5	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
6	埼玉	郷土	草加市立歴史民俗資料館	1

【2023年度】

No.	所在	館種	2023年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
2	東京	総合	パルテノン多摩	1
3	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
4	群馬	歴史	高崎市歴史民俗資料館	1
5	東京	歴史	東村山ふるさと歴史館／八国山たいけんの里	1
6	埼玉	歴史	毛呂山町歴史民俗資料館	1
7	埼玉	郷土	飯能市立博物館	1

【2024年度】

No.	所在	館種	2024年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	郷土	飯能市立博物館	3
2	山梨	美術	山梨県立美術館	1

2024年度 資格課程修了者

[司書課程]

メディア情報学部

メディア情報学科

石川 若菜
市村 海人
浦和 央典
奥村 陸
小田川 茜
籠島 圭一
亀川 詩織
佐藤 桃華
佐野 直子
芝田 結衣
鈴木 沙弥
鈴木 優心
関口 紫音
染谷 奏美
星野 萌優
小野寺 梢
齋藤 壮志

心理学部

心理学科

落合 衿香
葛野 桃英
木村 将大
高野 彩生
長谷 美里
藤嶋 美咲
森井 杏花

他3名

計 27 名

[学芸員課程]

経済経営学部

経済経営学科

大島 花菜

メディア情報学部

メディア情報学科

小島 怜士
古屋 李紗
藤原 朋照

計 4 名

司書課程科目担当教員一覧（2024年度）

《専任》

【教員名】

青野 正太
岩熊 史朗
門脇 夏紀

寺嶋 秀美

【担当科目】

図書館情報学／図書館制度・経営論／情報サービス論
コミュニケーション論
生涯学習論／図書館サービス概論／情報資源組織論
／情報サービス基礎演習／情報資源組織基礎演習
／情報資源組織発展演習
情報処理概論

《非常勤講師》

【教員名】

池田 貴儀
佐藤 正恵
野村 正弘
邊見 統
松野 南紗恵

【担当科目】

図書館情報技術論／図書館情報資源概論
図書館総合演習／情報サービス基礎演習／情報サービス発展演習
デジタル・アーカイブズ論
歴史資料論
児童サービス論

学芸員課程科目担当教員一覧（2024年度）

《専任》

【教員名】

伊藤 雅道
海老澤 豊
岡田 安芸子
門脇 夏紀
黒田 基樹
小林 奈穂美
竹内 俊彦
寺嶋 秀美
野村 正弘
福島 大我
船場 ひさお
増田 珠子
村上 大輔
村越 一哲

【担当科目】

環境生物学 A / 環境生物学 B / 生命の科学 A / 生命の科学 B
歴史学 B
日本伝統文化論
生涯学習論
歴史学 A
世界遺産論
マルチメディア論
ネットワーク構築論
デジタル・アーカイブズ論 / 地球科学
歴史学 B
音響メディア論
歴史学 A
文化人類学 A / 文化人類学 B
アーカイブズ学

《非常勤講師》

【教員名】

尾崎 泰弘
白石 行広
杉山 正司

丹治 清
羽田 武朗
邊見 統
若山 昇

【担当科目】

博物館資料論
データベース設計論
博物館経営論 / 博物館概論 / 博物館資料保存論
/ 博物館情報・メディア論 / 博物館実習 I / 博物館実習 II
博物館展示論
博物館教育論
歴史資料論
現代科学 A / 現代科学 B

駿河台大学 資格課程 年報 第 25 号

発行日 2025年3月31日

発行 駿河台大学 資格課程

〒357-8555

埼玉県飯能市阿須698番地

TEL 042-972-1110



駿河台大学
SURUGADAI UNIVERSITY